

H29

平成29年度補正
ものづくり・商業・
サービス経営力向上
支援補助金

有限会社竹内畳店

■事業

最新型框(かまち)縫機・平刺し機導入による
縁無し・半畳畳製造の生産性革新と高品質化の実現

■対象類型

革新的サービス

■導入機械装置

エア一式両框裁断機付框縫機東海ホープGAT2型框縫機(型式:KF-GAT2)

全自動反転式平刺機 東海ロボオート6型(型式:HM-6)

受け継がれて70余年 高い技術と品質守る老舗の畳店

【経営理念】

- ◎家族経営の長所を生かし、地域に密着した営業展開をします。
- ◎お客様のライフスタイルに沿ったきめ細かなサービスを提案します。
- ◎日本古来の畳文化を大切にしながら技術向上に努め、品質を落としません。

1948(昭和23)年に創業した竹内畳店は、江戸時代に職人の町として賑わった松江市石橋町の一角に店舗を構えている。作業場が手狭になったことから1978(昭和53)年に北堀町より移転し、現在は2代目竹内昭雄さんを会長に、3代目政治さんが代表取締役役に就任。妻玲子さんと4代目となる息子さんとともに家族で経営に携わっている。

2003(平成15)年には3代目の政治さんが国家資格である畳製作1級技能士を取得。2代目の昭雄さんとともに、2人の1級国家資格取得者のいる畳店として信頼を高めている。さらに、3代目夫婦は「畳ドクター」(全国畳産業振興会)の認定を得て、消費者へ国産畳の良さや価値を伝えていく役割も担っている。

近年は、畳製造のみならず業務の幅を広げ、襖(ふすま)、障子、オーダーカーテン、網戸の張替え、新調など各種リフォーム工事や点検も手がけ、隣接して、畳を生かした暮らしを提案する展示場の開設も進めている。

縁あり畳から縁のない半畳サイズまで 新しい機械導入で需要の変化に対応

畳は、同じ大きさに見えて部屋ごとに1mm単位でサイズが異なる。職人が1枚ずつ手縫いをしていた時代には、1日で6帖を製作するのが限度だった。しかし、現在は機械の力を借りて、1日約40帖の製作が可能となっている。

一方で、近年のマイホームは設計が多様化し、和室は「畳コーナー」へと様相を変え、これまでの縁のある畳から琉球畳風の縁のない半畳サイズに需要が移行しているという。

竹内畳店では、新しいスタイルの畳の製造にかかる従来の作業を止めなければならず、外注に出すこともあった。そこで、これまでの縁あり畳も後世に伝えたい当店では、新旧両方の畳を製造できる高性能機械の導入を決めた。それが「エア一式両框裁断機付框縫機」と「全自動反転式平刺機」である。

これにより生産工程が大幅に短縮され、新旧両方の畳を同時



竹内畳店の皆さん



1 導入したエア一式両框裁断機付框縫機



2 稼働する全自動反転式平刺機

3 製造工場の様子

進行で製造できるようになり100%自社製造を可能にした。以前にも増して厳密な寸法がボタンひとつで手早く取れるようになり、裁断や莫座(ござ)を張る作業は、人員を削減することができた。

家族経営の利点生かし受注アップ 住まいのプロフェッショナルを目指す

質の向上と作業の効率化を図った新機種の導入は、それまでの製造量を倍増させ、営業スタイルに変化をもたらした。松江市内を中心としていた受注は、現場作業員が営業や納品に当たること、安来市、出雲市、雲南市といった近隣の市町までエリアが広がった。加えて、女性や若い世代のスタッフが営業のフォロー、相談に乗るシステムも顧客に親しみやすさや安心感をもたらし、今まで以上に、畳のみならずクロスやカーテンなどの内装工事一般への営業展開が可能になった。

創業70年を超え、2代目が見守り、3代目夫婦を中心にその息子2人が後継者として自社の将来設計を描いている竹内畳店。日本の気候風土によって生まれた伝統文化としての畳に加え、時代に即した新しい畳の製造を軸として、家族経営だからこその細やかな対応と提案のできる「住まいのプロフェッショナル」を目指し、新たな展開が始まっている。

■Company Data

有限会社竹内畳店



竹内畳店

代表者名: 竹内政治
設立年: 1948(昭和23)年
資本金: 3,000千円
従業員数: 5名
主たる業種: 畳製造業
本社: 〒690-0881 松江市石橋町54-1
電話: 0852-21-0214
FAX: 0852-21-0305
URL: <https://ta-tatami.com/>